

既存排水機場等の効果 円山川水系円山川〔六方排水機場〕

○六方排水機場では、平成29年10月22日14時～24日1時にかけて、沿川での浸水被害発生に備えてポンプを操作・運転し、**総排水量365.7万m³の内水**を排除しました。
(六方川排水機場(県管理)と併せて**総排水量574.5万m³の内水**を排除しました。)

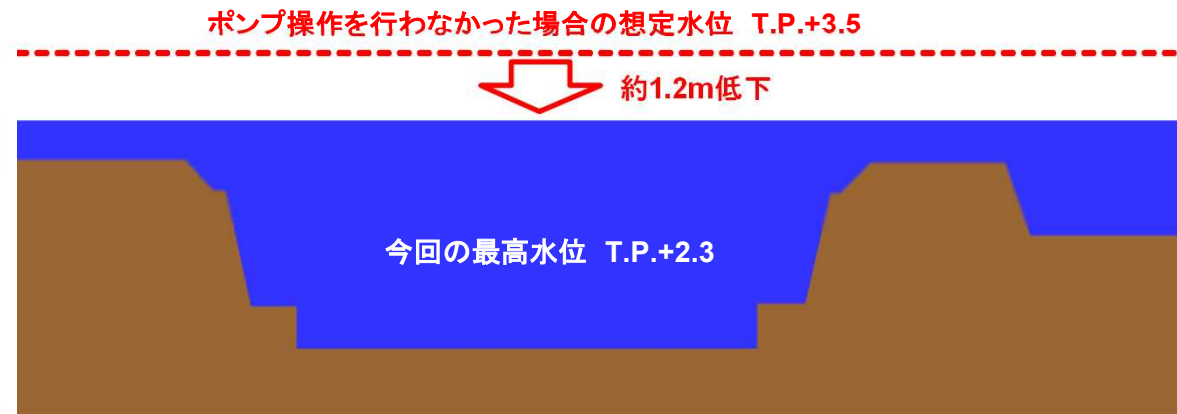
■六方排水機場の位置・全景



■六方川の水位低減効果

(※六方排水機場(国)、六方川排水機場(県)の併せた効果で算出)

今回のポンプの稼働により、**総排水量410.2万m³の内水**を排出し、戸牧川の水位が**約1.2m低下**、浸水面積が**約365ha**、浸水家屋が**約600戸減少**。

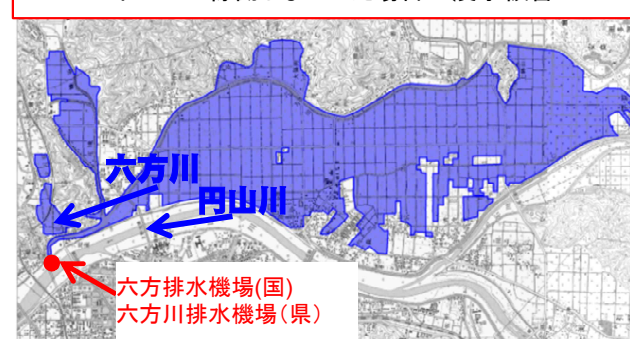


■六方排水機場の役割

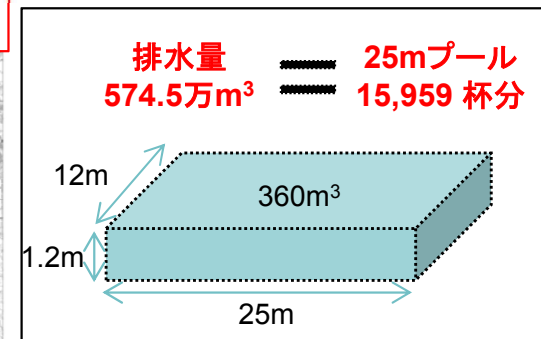
六方排水機場は、六方川における内水対策事業として、平成13年に運用開始し、ポンプ15.0m³/sが2台、**合計排水能力30.0m³/s**の排水機場として現在に至っています。(なお、平成25年度より、県管理のポンプ排水能力18m³/sの六方川排水機場が六方排水機場敷地内に移転し、運用開始。)

六方排水機場は、円山川洪水の六方川への逆流を防止するとともに、六方川の流水を円山川へ排水することで、豊岡盆地の沿川での浸水被害を軽減する役割を担っています。

ポンプが稼働しなかった場合の浸水被害



● 排水機場
■ 想定浸水面積



※速報値であり、今後変わる場合があります。